

(様式2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名	交通安全施設等整備		路河川名等	(主)伊那生田飯田線	
事業毎の通番	1	市町村名	駒ヶ根市	箇所名(ふりがな)	伊那耕地(いなこうち)
事業目的	当路線は伊那市と飯田市を結ぶ幹線道路であり、朝夕の交通量が非常に多い。しかし当区間は中学校入口の真横にありながら、未だ歩道が未整備で、歩行者の安全に支障をきたしている。当区間が完成すれば、通学路に指定される予定であり、地域住民からの対策要望が高まっている。そこで、当事業は歩行者の安全確保のため歩道を設置するものである。				
しあわせ信州創造プランにおける位置付け	第5編 施策の総合的展開 第4章 4-2 県民生活の安全確保 第5章 5-2 快適で暮らしやすいまちづくり	事業実施の根拠法令等	社会資本整備重点計画法 交通安全施設等整備事業に関する法律		
関連する事業、計画等	通学路安全プログラム				
保全対象・範囲 受益対象・範囲	駒ヶ根東中学校 通学者 他 現況自動車交通量:2,478台/日、現況交通量(歩行者・自転車)17人/12h				
着手年度	平成29年	事業期間	3年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)
完成年度(見込み)	平成31年	費用対効果	—	国庫	その他 県債 一般財源
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=240m W=2.0m			150,000	82,500 60,750 6,750
年度事業内容(主な工種)	用地補償 1式			15,000	8,250 6,075 675
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童の交通事故の減少が期待される			
	間接的効果(定量的・定性的)	緊急輸送路の整備 通行車両の交通事故抑制			
評価の視点	必要性	○現況自動車交通量:2,478台/日 ○現況自転車歩行者交通量:現況交通量(歩行者・自転車)190人/12h			評価 A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合:通学路安全プログラム ○緊急輸送道路の路線指定:県緊急輸送道路(2次)に指定			評価 A
	効率性	○事業期間:3年間(H29~H31)			評価 B
	緊急性	○通学路対策:通学路交通安全プログラムを踏まえた対策箇所 ○現況の歩道幅員:歩道なし			評価 B
	計画熟度	○事業情報の共有:関係者を中心に周知(H26.10地元説明) ○地域の取り組み:協力的である ○地域の合意形成:合意形成が図られている ○住民との協働:住民関与が低い			評価 C
	部意見	朝夕の交通量、歩行者が多い通学路であり、安全な歩行空間を確保するため、早期の歩道整備が必要である。	行政改革課意見	計画区間内にある中学校出入口から北側の歩道が未整備で、歩行者の安全に支障をきたしていることから、必要性、重要性が認められる。	評価結果 ○

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)	【整備の必要性がわかる状況写真等】
	<p>位置図</p>  <p>横断面図</p>  <p>平面図</p> 	<p>駒ヶ根東中学校生徒登校時の状況</p>  <p>至 伊那</p> <p>補増未整備箇所の状況</p>  <p>至 伊那</p>
事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当区間は中学校入口の真横にありながら、未だ歩道が未整備で、歩行者の安全に支障をきたしている。当区間が完成すれば、通学路に指定される予定である。
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	本箇所は、地域住民からの対策要望が強く、駒ヶ根市の現地調査において、毎年要望が上がっている。
	③事業説明等の経緯	H25.12月 地元役員へ計画説明。 H26.10月 地元地権者へ計画説明。
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	庭に面した構造物に化粧壁面を採用。 垣根の撤去区間に目隠しフェンスを計画。
	⑥地域活性化への影響と配慮	安全で快適な歩道空間の整備により沿道の活性化が図られる。
	⑦その他	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 35° 48' 18.97" 東経:E 137° 56' 49.65"